

2. 朝廷との関係強化

No. 3

* 新たな宮家の創設

これまで宮家は伏見・有栖川・京極(桂)の3家しかなく、皇子・皇女の多くは出家して門跡寺院に入っていた。新井白石は1000石を献上し、あらたに12 ^{かんいんのみや} 閑院宮家 を創設した。

→この措置から約70年後、天皇に後継者がなく断絶の危機が訪れたとき、上記12から光格天皇が即位して、その危機は回避された。光格天皇の系統が現在の天皇家につながっている。

※現在、宮家は ^{あきしのみや} 「秋篠宮」 ^{ひたちのみや} 「常陸宮」 ^{たかまどのみや} 「三笠宮」 「高円宮」の4家であるが、秋篠宮以外に男子の後継者がなく、再び宮家は断絶の危機にある。(2004年高松宮家が断絶)

諸藩における文治政治 【17世紀後半頃】 [図表P.174③]

藩名	藩主	招いた学者	その他
会津	13 ^{ほしなまさゆき} <u>保科正之</u>	14 ^{やまざきあんさい} <u>山崎闇斎</u>	
岡山	15 ^{いけだみつまさ} <u>池田光政</u>	16 ^{くまざわばんざん} <u>熊沢蕃山</u>	郷学 ¹⁷ ^{しずたにがっこう} <u>閑谷学校</u> 藩校? 私塾? ^{はなばたけきょうじょう} <u>花鳥教場</u>
水戸	18 ^{とくがわみつくに} <u>徳川光圀</u>	19 ^{しゆしゆんすい} <u>朱舜水</u>	江戸に ²⁰ ^{しやうこうかん} <u>彰考館</u> 設立 『大日本史』編纂開始
加賀	21 ^{まえだつなのり} <u>前田綱紀</u>	22 ^{きのしたじゆんあん} <u>木下順庵</u>	

◇ 「日本史文型No. 3ガイド」にも書いたとおり、図表 P.174③の表にまとめられた「名君」たちは、4代將軍徳川家綱や5代將軍徳川綱吉が推し進めた文治政治への転換の流れという時代背景とともに抑えるようにしましょう。

山崎闇斎、熊沢蕃山、木下順庵といった学者たちについては授業プリント No. 7「元禄文化 I」であらためてその位置づけについて考えます。「倫理」または「倫理政経」もともに学んでいる人は、一石二鳥ということになりますのでどちらの授業においてもしっかりとその特徴を見極めるように心がけましょう。

ところで、山崎闇斎の「闇」の字は普段使用することがなく、いわゆる「ど忘れ」しやすい字なので気をつけましょう。また「朱舜水」は「李舜臣」と間違われやすい(?) かもしれないので一応注意(李舜臣は覚えてますよね?)。

また水戸藩の徳川光圀は、テレビドラマ『水戸黄門』のモデルとなった人物でもあります(といっても実際の徳川光圀はお供を連れて動き回っていたわけではないようです)。そもそも皆さんは『水戸黄門』自体をご存じでしょうか。パロディでは見かけているかもしれませんが、なんと先日、BS-TBSにおいて、『水戸黄門』第25弾が始まったようです。戦後日本大衆文化を知るためにも1話くらい視聴してもいいかもしれません。私も第24弾で武田鉄矢が水戸黄門役をやっていると聞いて、1話だけ見たものでした。

なお、世界史選択者はお気づきかもしれませんが、徳川光圀の「圀」は中国・唐の武則天(則天武后)が生み出した文字・則天文字の、日本における希少な使用例として知られています。

※ プリントの色使いを抑えてみました。プリントをアップしたところで皆さんの反応はまったくわからず、もしかしたらこのプリントも誰も利用していない可能性すら考えられるのですが要望等がありましたら、担任の先生などを通じてお知らせください。